

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

鹿児島県地域セミナー 報告書

2019（令和元）年 11 月 28 日（木）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」鹿児島県地域セミナーが開催されました。当日は、今年度の推進校の先生方を含む 118 名に参加いただき、下記の要領で行われました。

【開催概要】

日時：2019（令和元）年 11 月 28 日（木）13 時 45 分～17 時 30 分

会場：ホテルウェルビューかごしま 2 階

主催：鹿児島県教育庁、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：118 名

プログラム：

13:45～13:55 開会挨拶

鹿児島県教育庁 保健体育課

課長 中山 恭平 氏

13:55～14:55 事業説明

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

副センター長 深見 英一郎 氏

研究員 岡田 悠佑 氏

14:55～15:05 休憩

15:05～16:35 講演 「挑戦 ～今、私にできること～」

副島 正純 氏

（ロンドン大会 車いす陸上／リレー 銅メダル）

16:35～16:45 閉会挨拶

鹿児島県教育庁 保健体育課 学校体育安全係

指導主事 寺原 和照 氏

16:50～17:30 推進校の担当者との打ち合わせ

開会行事では、鹿児島県教育庁の中山氏より挨拶がありました。中山氏からは、鹿児島県では 2019 年にインターハイがあり、2020 年 10 月に国体があることから、オリンピック・パラリンピック教育を通して、子どもたちがスポーツの意義や価値を再認識できる契機にしてほしい、と本事業への抱負が述べられました。

続いて、本センターの深見副センター長、岡田研究員より、事業概要や実践事例について説明がありました。具体的には、本事業が始まった背景、学習指導要領におけるオリンピック・パラリンピック教育の位置づけ、実践計画の立案の仕方、校種ごとの教科の学習と関連付けた実践等について紹介がありました。また、「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」（スポーツ庁）や「I'mPOSSIBLE」（パラリンピックサポー

トセンター、JPC)等のオリンピック・パラリンピック用教材やパラリンピアンの副島正純氏を題材にした「夢に向かって」(早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター)、「WHO I AM」(WOWOW、IPC)等の映像資料も紹介されました。



中山氏の挨拶



深見副センター長の講話

休憩の後、「挑戦～今、私にできること」というテーマで、車いすマラソンの副島氏(ロンドン大会銅メダル)の講演が行われました。生い立ち、障がいを負ってから競技を始めるまで、そしてプロ選手となってリオデジャネイロ大会に出場に至るまでの出来事について、その時々を感じた想いとともにお話いただきました。仕事上の事故で障がいを負って不安な入院生活を送っていた副島氏は、障がいを「受け入れる」ことで少しずつ前向きに生きる気持ちになれました。さらに、友人の誘いで車いすバスケットボールを体験したときに、ボールを追いかけるだけで楽しかった経験を通して色々なことに挑戦しようと思えるようになりました。その後、車いすマラソンの競技者に会い、その人に追いつきたいと思うようになりました。しかし、実際に競技を継続していくことは容易ではなく、車いすの販売の仕事と競技の両立の難しさに悩み始めました。そのときに、2000年のシドニー大会で知り合いの競技者がメダルを獲った映像を見て「自分はこのままでいいのか?」、「人生を後悔したくない」と強く思い、「パラリンピックに出場したい」と思うようになりました。その後、ボストン車いすマラソン大会で世界記録を出したり、北京大会から3大会連続でパラリンピックに出場し、現在は東京大会の出場も目指しています。このような自らの人生を振り返りながら、ケガをした当時は人生を楽しむことはできないと考えていたが車いす陸上に出会い夢をもつことができ自信を得ることができたから、これからも車いすで自分がやりたいことをやることで人に影響を与えることができる「チェンジメーカー」になっていきたい、と抱負を述べられました。

最後に、鹿児島県教育庁の寺原氏より閉会の挨拶があり、散会となりました。

セミナー終了後には、今年度の推進校の担当者と打ち合わせを行ないました。



副島氏の講演



推進校の担当者との打ち合わせ